

## 令和5年度 第3回公立鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 令和5年11月21日(金) 10:00~12:00
- 場 所 本部講義棟3階 大会議室(対面+オンライン会議)
- 出席者 江崎信芳委員、西山信一委員、小林朋道委員、田中洋介委員、若原道昭委員、  
児嶋祥悟委員、林昭男委員、米田裕子委員、山田修平委員  
[9名/10名]  
山崎安造監事、北野彬子監事[2名/2名]
- 欠席者 澤志郎委員

### 【議事】

#### 1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

#### 2 審議事項

##### (1) 公立鳥取環境大学第3期中期計画(案)について

事務局から公立鳥取環境大学第3期中期計画(案)について説明があり、意見をいただいた。これらの意見を踏まえて、第3期中期計画(案)を修正することとなった。

〈主な意見等〉

- ・ 教育方針の所で「随時ディプロマ・ポリシーを見直します」とあるがディプロマというのは、随時見直すものではない。表現を変えた方が良いと思う。
- ・ 入学・就職率で30%という目標があるが、計画は、それを達成するためにどうするのかを書くべきではないか。
- ・ 中期目標の基本的目標に18歳人口の急減期の記載があるが、中期計画の中に記載がない。中期計画の中のどこかに問題意識、課題意識の記載があった方が良いと思う。マイナスの要素にならないような記載をしてほしい。
- ・ AIの関連で機械学習という言葉が出てくるが、それは当たり前にある言葉なのか教えていただきたい。  
→一般の方に解り難くなっているかもしれない。例えば用語集のようなものを作る必要があるかもしれない。
- ・ これから大学として魅力づくりを進めていく中で、今までと違って危機意識とかこれまでより厳しいものがあるということが頭に記載されていてもいいのかなと感じた。こういうことについては、こうしますよというのは、書いてあるがこれまでよりも厳しいということがあるので、それに向けて今まで通りなのか、今までより増してやっていくのか、組織改革もそれによってやっていくという、そういうことがあった方が、これから先の中期計画を教職員が指針として見ていく方が良いのではと思った。
- ・ 「グリーン人材」という言葉があるが、一般的な言葉ではないのでは。どういう人の事なのか。  
→これから脱炭素に向けて色々な取り組みがある中で、自分たちがどのくらい二酸化炭素を出しているのかを計測する力が必要。それを理解できて企業活動に生かせる人材が必要である。  
政府が出している今後必要となる人材が「グリーン人材(GX)」「デジタル人材(DX)」の2つある。本学で言うと「環境学部」で学んだことと「経営学部」で学んだことがいい具合にミックスして行けば「グリーン人材」「デジタル人材」というものを持った人材を社会に

出していけると思う。

- ・ 教職員が共通認識を持って行うことが大事。
- ・ この計画を作る段階で、教職員が十分理解して作成することが重要である。
- ・ グリーン人材というのは一つのキャッチコピーとして魅力があるもの。グリーン人材というのは何かというと広範囲で非常に難しい。グリーン人材の育成となると、どの先生もどの分野でもこの部分を担っているよという形での対応をしていただけるのかなと思う。
- ・ 環境大学でグリーン人材という言葉を流行らせてほしい。

### 3 報告事項

#### (1) 公立大学法人公立鳥取環境大学次期理事長（学長）候補者の選考について

事務局から、公立大学法人公立鳥取環境大学次期理事長（学長）候補者の選考について報告があった。

#### (2) 公立大学法人公立鳥取環境大学令和4年度業務実績評価書について

事務局から公立大学法人公立鳥取環境大学令和4年度業務実績評価書について報告があった。

#### (3) 脱炭素先行地域づくり事業の計画変更について

事務局から脱炭素先行地域づくり事業の計画変更について報告があった。

- ・ 外壁断熱・窓ガラス改修、中央監視設備改修がそれぞれ設計年度から工事年度の間が2年空いているのはなぜか。  
→補助金の年度割が決まっているため、それを過不足なく行うため。中央監視設備改修は、今後、木質バイオマスを行うかどうかによる為。現在、基本設計を作成中で、最終が出るのが、来年6月予定で、その結果によるので、現時点では、暫定である。

#### (4) 令和5年度第2回補正予算（専決）について

事務局から令和5年度第2回補正予算（専決）について報告があった。

- ・ 11月以降の突発的な家計急変も想定されるというのは、具体的に何かそういった情報を察知してということなのか、それともそういうこともありうるかもしれないということか。  
→可能性があるので、仮の枠を持っておくということ。

#### (5) 公立大学法人公立鳥取環境大学職員給与規程等の改正について

事務局から公立大学法人公立鳥取環境大学職員給与規程等の改正について報告があった。

#### (6) 近況報告

事務局から近況報告があった。

- ・ 研究助成の所で准教授の先生は多いが、教授の先生が少ないのはなぜか。中期計画では、全教員が関わると書いてあったが、代表者が記載されているのか。  
→実際の状態である。ただ分担者になって関わっている方が多い。ただそこは出てこない。

### 5 その他

### 6 閉会